

表彰制度の推進でさらなる高品質化を実現

令和5年度 NGP 低クレーム発生率表彰において、 最優秀賞の(株)福山セコは過去最も低い0.08%で3年連続受賞! 堅実発送点数部門は(株)ナカスジオオートパーツが受賞

NGPでは、商品品質に対する意識向上を目的として、年間クレーム発生率が低い支部及び組合員に対する表彰制度を設けています。

2023年度の優秀発送点数部門(全体平

均より発送点数が多い組合員が対象)最優秀賞は(株)福山セコ(藤原庸正社長、本社=広島県福山市)が、堅実発送点数部門(全体平均よりも発送点数が少ない組合員を対象とした部門)は(株)ナカスジオオートパー

ツ(徳原貴衡社長、本社=福井県坂井市)がそれぞれ受賞しました。

NGPは、お客様に常により良い高品質なリユース部品を供給し続けていくため、今後も様々な取り組みを推進してまいります。

低クレーム発生率
優秀発送点数部門 最優秀賞

(株)福山セコ(広島県)

クレーム発生率 **0.08%**



小林信夫理事長(右)と(株)福山セコ・藤原庸正社長

(株)福山セコ・藤原庸正社長
受賞コメント

このたびは、低クレーム率の「優秀発送点数」部門で表彰という名誉ある賞を3年連続でいただき、大変光栄に思います。NGPは、厳格な

商品登録ルールがあり、すべての生産基準が明確にされており、そのルールを生産担当者全員がしっかりと理解できるよう、徹底した教育を行っています。

ミスを防ぐための仕組み作りにも注力しており、部品取りから出荷に至るまで、左右違いのミスが発生しないよう何度もチェックを行っています。たとえば、棚での保管では左右を別々のスパンに分け、また、ライトなどの取付部のステーには折れや破損がないことを確認し、チェック時には印を付ける流れを確立しています。さらに、折れやすい部品についてはダンボールで補強して保管し、出荷時に再確認する仕組みも導入しています。

また、同じ車種を連続で生産しないよう工夫し、凡ミスを防ぐ流れを構築しています。万が一ミスが発生した場合には、会議でその原因を全員で話し合い、解決策を共有することで

再発防止に努めています。発送前には必ず最終チェックを実施し、お客様に安心してご利用いただける商品を提供しています。

今回、クレーム率0.08%という成績で全社一位を受賞することができたのは、社員一同の努力の賜物であり、さらに、NGPに加盟するすべての加盟店の皆様からのご協力があったからこそ実現できた成果だと感じております。この場を借りて、深く感謝申し上げます。

また、当社の商品を積極的にご利用いただいている整備・钣金塗装事業者の皆様のお力添えがあったからこそ、今回の成果を達成することができました。皆様の日々のご信頼に心から感謝申し上げます。

これからも、より高品質な商品をお届けするため、改善を重ねてまいります。このたびの表彰を励みに、引き続き全力で取り組んでまいります。

低クレーム発生率
堅実発送点数部門 最優秀賞

(株)ナカスジオオートパーツ
(福井県)

クレーム発生率 **0.20%**



(株)ナカスジオオートパーツ・徳原貴衡社長(左)

(株)ナカスジオオートパーツ・徳原貴衡社長
受賞コメント

このたびは品質優良表彰をいただき、大変光栄に思います。当社では、お客様に安心してご利用いただける高品質な自動車リサイクル部品の提供を目指し、以下のような取り組みを徹底しております。

まず、左右対称の部品は混同を防ぐため、必ず別々の棚に分けて保管しています。また、機能部品については、生産指示者と取り外し担当者の2名がそれぞれテストを行い、確実に動作確認を実施しています。さらに、部品の取り外し直後に車体番号を記載したシールを全ての部

品に貼付し、登録ミスを未然に防ぐ工夫をしています。

出庫、梱包、送り状の貼付においては、異なるスタッフが作業し、最終確認を2名で行うことで、お客様への誤配送を防止しています。そして何より、「より高品質な商品をお客様に届ける」という信念のもと、品質管理を徹底しております。

これからもお客様の信頼に応えられるよう、より一層の努力を重ねてまいります。このような名誉ある表彰をいただき、改めて身の引き締まる思いです。

2024年新車販売市場

登録車も軽自動車も前年比を下回る 各社の認証不正による生産停止が大きく影響

日本自動車販売協会連合会と全国軽自動車連合会の発表によると、2024年の年間新車販売台数は、4,421,494台で前年と比べて7.5%の減少となり、2年ぶりに昨年実績を下回りました（グラフ1）。

そのうち登録車の販売台数は、2,863,626台で同5.6%の減少でした。また、車種別の販売台数（表1）では、普通貨物車が昨年を2.1%上回り、バスも20.1%上回ったものの、他の車種はすべて前年度を下回りました。

2023年末から、2024年中ごろにかけて、ダイハツ、トヨタ、マツダ、ヤマハ発動機、ホンダ、スズキで認証不正が発覚し、車両の生産を一時停止したことが販売台数に響いたものと考えられます。

通称名別販売台数ランキング（表2）で

は、1位はホンダN-BOX（20万6,272台）で3年連続首位、2位はトヨタ・カローラ（16万6,956台）で、順位を2つ上げました。3位はトヨタ・ヤリス（16万6,162台）。4位はスズキ・スペーシア（16万5,679台）で、順位が2つ上昇。2～4位が仲良く16万台と接戦でした。

一見、調子が良さそうに見えるホンダN-BOXですが、前年比10.9%減と、フルモデルチェンジを行ってから元気がありません。一方、スズキ・スペーシアは前年比35.5%増と、収納スペースなどの機能性の充実、予防安全機能が優れている点が評価され、販売台数を大きく伸ばしています。2025年はダイハツ・タントのフルモデルチェンジも控えており、軽自動車の三つ巴の戦いが始まろうとしています。

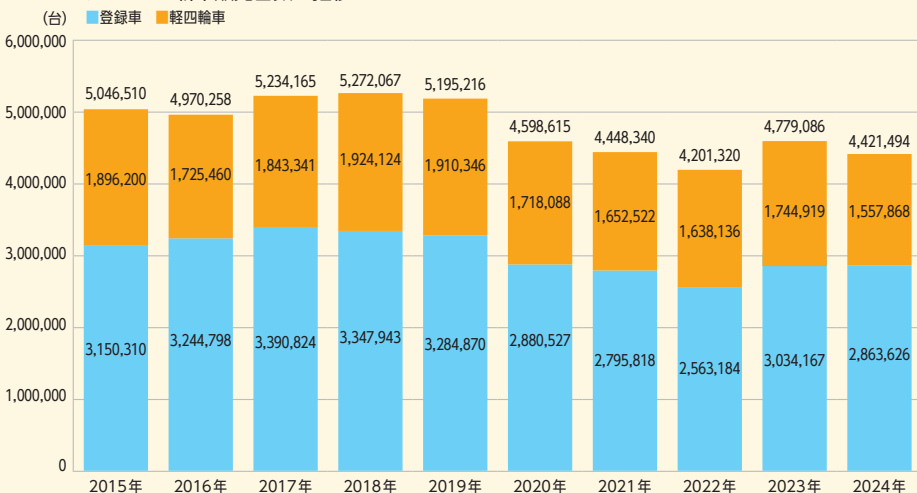
表1 2024年 年間車種別販売台数

	販売台数(台)	前年対比(%)
普通乗用車	1,755,554	99.9
小型乗用車	767,551	85.9
乗用車小計	2,523,105	95.2
普通貨物車	146,706	102.1
小型貨物車	183,718	79.6
バス	10,097	120.1
登録車合計	2,863,626	94.4
軽四輪乗用車	1,202,095	89.6
軽四輪貨物車小計	355,773	88.2
軽四輪車合計	1,557,868	89.3
総計	4,421,494	92.5

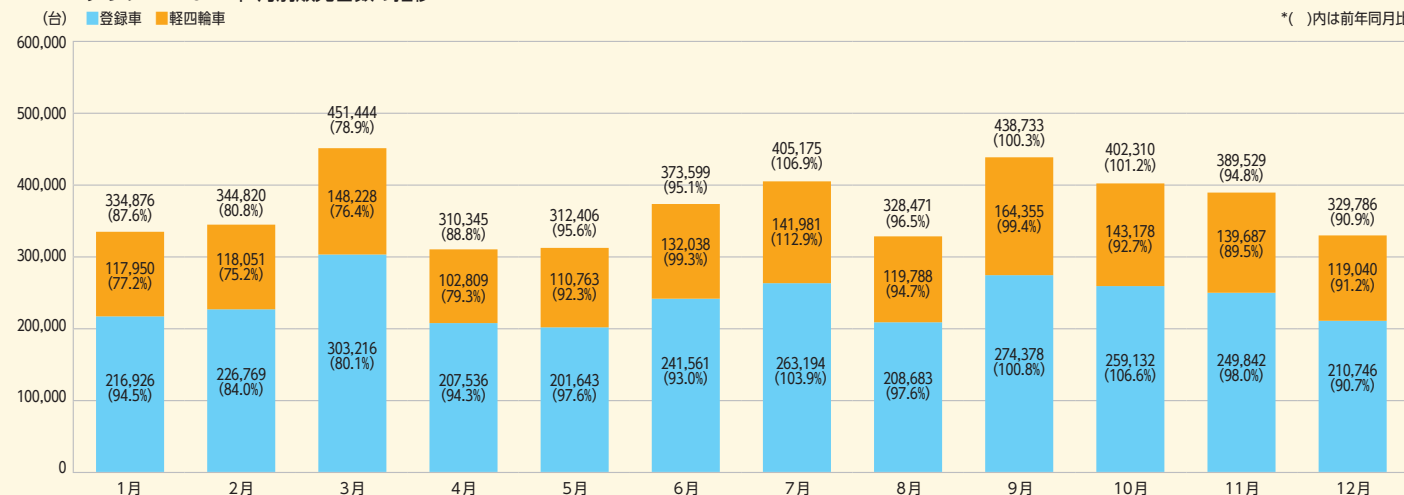
表2 2024年 通称名別 年間新車販売台数ランキング

順位	通称名	ブランド名	台数(台)	前年比(%)
1	N-BOX	ホンダ	206,272	89.1
2	カローラ	トヨタ	166,956	107.8
3	ヤリス	トヨタ	166,162	85.5
4	スペーシア	スズキ	165,679	135.5
5	シエンタ	トヨタ	111,090	83.9
6	ノート	日産	101,766	99.3
7	タント	ダイハツ	93,759	58.8
8	スズキ	ハスラー	92,818	112.2
9	フリード	ホンダ	85,368	110.1
10	プリウス	トヨタ	83,485	84.2
11	セレナ	日産	80,899	106.9
12	ワゴンR	スズキ	79,718	110.4
13	アルファード	トヨタ	79,374	149.5
14	ヴェゼル	ホンダ	75,424	127.4
15	ルークス	日産	70,697	100.2
16	ヴォクシー	トヨタ	70,636	79.3
17	ノア	トヨタ	70,611	74.2
18	アルト	スズキ	68,139	100.6
19	ルーミー	トヨタ	67,698	67.2
20	ハリアー	トヨタ	64,181	85.3

グラフ1 新車販売台数の推移



グラフ2 2024年 月別販売台数の推移



東京オートサロン2025開催

マーケット全体の市場拡大を目指し、 自動車の楽しさ・魅力を訴求

日本最大級のカスタムカーイベント「東京オートサロン2025」が1月10～12の3日間、幕張メッセ（千葉県千葉市）で開催されました。

出展者数は389社（前回378社）、出展車両台数は857台（前回893台）、ブース総数は4,336小間（前回4,329小間）と昨年より出展車両台数は減少したものの、それ以外は前年を上回る規模で行われた今回は、国産カーメーカーや輸入車インポーター、アフターパーツメーカー、カスタム

ショップなどが新型車やコンセプトカー、カスタムカーを披露しました。

有名アーティストによるライブやカスタムカーによるデモ走行などの催しも数多く行われ、3日間合計の来場者数は258,406人（前回230,073人）とにぎわいを見せました。



スズキ

昨秋に発売したフロンクスをナイトフィッシング仕様にカスタマイズした、フロンクス・シーバス・ナイトゲームを展示。ボデーはマットなグリーンをベースに蛍光イエローをラッピング



スバル

STIコンセプトカー S210プロトタイプを世界初公開。国内で8年ぶりとなるSシリーズはニュルブルクリンク24時間レースマシンで鍛えられた技術を惜しげもなく投入する



ダイハツ

ダイハツブースでひと際注目を集めたのがレース参戦車とともに展示されたミライースGR SPORTコンセプト（画像手前）である。ターボ・エンジンと5速MTを搭載。市販は未定



TOYOTA GAZOO Racing

GRヤリスをベースに現在開発中の直列4気筒2.0ℓターボの新型エンジンG20Eをリヤミッドシップに搭載したGRヤリスMコンセプト。驚きの魔改造モデル！



日産

今や伝説となったスカイラインR32GT-RにEVコンバージョンを施したR32EVはツインモーターとリーフNISMO RC02に搭載した駆動用バッテリーを採用し、現代によみがえった



ホンダ

「Honda SPORTS」を展示テーマに掲げたホンダの熱量が伝わってくる1台がシビックタイプRレーシングブラック・パッケージだ。シビックタイプRの納期待ち解消の目処が立ち、今秋発売予定



マツダ

スーパー耐久レースで鍛えたマツダスピリットレーシングロードスターを発表。その中でも12RにはSKYACTIV-G 2.0エンジンをはじめ専用部品が設定され、市販を予定している



三菱

トライトンのカスタムカーコンテストやラリーカーが飛び出すブースづくりで来場者の注目を集めた三菱自動車。壁を突き破る車両はアジアクロスカンントリーラリー・AXCR 2024の本戦仕様車

NGP 今月のCO₂削減量



リサイクル部品利用に伴うCO₂削減量

令和6年12月: **1,780t**

※自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品をきむと115品目）と、リビルト部品の3部品を対象に算出した数値です。



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和6年12月: **0.2t**

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

「自動車産業」から「モビリティ産業」へ、 社会と共創する自動車産業の未来の姿を示す

日本自動車工業会（片山正則会長）は1月7日、自動車産業を取り巻く課題を再整理した新たな指針「自工会ビジョン2035」を発表しました。

同会は2023年に優先的に取り組むべき課題として、カーボンニュートラルや国際競争力確保などに関する「7つの課題」を定めて取り組んできました。環境や世界情勢が大きく変化し、また電動車の海外との開発競争、インフラ整備や資源確保の問題など様々な課題が見えてきました。これらの課題解決には他産業や政府、国民との連携が重要と考え、産業の目指す未来への理

解と共有を目的に本ビジョンが作成されました。

同ビジョンでは自動車産業のこれまでの取り組みや課題をまとめた上で、さらに今後自動車産業が人々の生活基盤を支える“モビリティ産業”へと変革する中で必要になるクリーンエネルギーや電動車の一般化などのインフラ整備、安定的な半導体確保の実現や資源のリサイクルによるサプライチェーンの強靱化と循環型社会の実現などの目標を掲げました。そして課題解決のために求められる政府、自動車産業、他産業の具体的な取り組みがまとめられています。

片山会長は同ビジョンの発表にあたり、「社会課題が一層深刻さを増し、働き方や価値観の多様化も加速しています。人々の未来や暮らしを守るには業界が柔軟に対応しなければならず、自動車産業には一層の推進力が必要です」と産業の現状に触れ、「その源である社会からの理解と応援を得るために本ビジョンを作成しました。社会や生活者を中心に据えた産業の展望を共有し、みなさまと同じ夢を抱き歩みたい。我々がその実現に向けて責任を持って取り組みます」とコメントしました。

NGP組合員 かわら版

NGP、交通遺児育英会に寄付金を贈呈 子供たちの教育や生活を支援

NGP協同組合は、交通遺児育英会（石橋健一会長）に寄付金を贈呈しました。

NGPは、リユース部品に品質保証の証としてギャランティシールを貼付するとともに、同部品の販売で得た売り上げの一部を交通遺児育英会などに寄付しています。これは、使用済み自動車を取り扱う事業者として、交通事故で親を亡くした遺児らの教育や生活を支援したいと

の思いから、1991年から毎年続けてきた活動です。

小林信夫理事長の代理として谷洋紀事務局長が交通遺児育英会を訪問し、石橋会長に目録を手渡すとともに感謝状を受け取りました。石橋会長からは「毎年ご支援いただいていることに感謝しています。当会では交通遺児の負担を少しでも減らすため、給付型奨学金や就学支援金



交通遺児育英会・石橋健一会長（左）とNGP・谷洋紀事務局長

の充実を図りつつ、今年から英語検定試験費用と、浪人生の補助も進めています。そのような取り組みが進められるのも、皆さまからの寄付のおかげです」と、感謝の言葉をいただきました。

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
東北	株式会社デック	会社代表	代表取締役 吉澤 慎一	2024年11月28日

令和6年12月21日、東海支部組合員・有限会社川原商会（岐阜県一宮市）代表取締役 田口雅輝様のご母堂様・田口信子（たぐちのぶこ）様をご逝去されました（享年83歳）。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

令和7年1月7日、東北支部組合員・有限会社むつパーツ（青森県むつ市）代表取締役 坪 千代志様のご令室様・坪 真理子（つばまりこ）様をご逝去されました（享年70歳）。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

訃報

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1208 FAX:03-6705-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1212 FAX:03-6705-1201
<https://www.ngp.co.jp/>